

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.196

2016/03/02

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会

積雪・残雪の中でも作業は続けています



PHOTO BY HASHIMOTO

湿原内の観測地点●:水質▲:水位

薄雪に被われる湿原 (16/02/16)

今冬は 1m を超える積雪が一度も無いという実に珍しい年でした。2 月の中旬以降は、淡雪が毎晩降るといった変わった年でもありました。降雪が少なかったこともあり、ユキバツバキ調査区でのタグ付けが会員外のボランティアのみなさんの協力もあり 5,958 株に付け終わりました。あと約 2,000 株弱の作業が残っています。なんとか 3 月中に付け終わ



急斜面でのタグ付け (16/02/22)

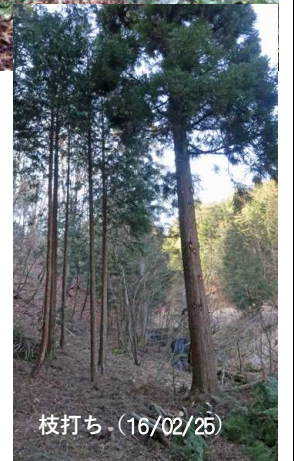


タグ付けの現場

PHOTO BY HASHIMOTO

たいと考えています。観察コース沿いのヒノキの枝打ちも順調に進み、尾根道沿いはスカッとした状態になり来訪者にも気持ちよく歩いてもらえそうです。猟期に入って免許を持

った会員や地元猟友会の協力で、シカ・イノシシが罠にかかり個体数管理も進んでいますが、相変わらず食害は続いています。今年の大課題は、食害で枯れ始めたササを再生することです。2/27 沢道入り口のササ原に防獣ネットを設置し再生がどのように進行するのを観察するようにしました。雪解けからはブナの森一帯の再生に取りかかります。



枝打ち (16/02/25)



左の画像は四季の森から守護岩周辺をドローンで撮影したものです。夏場の葉が茂っている時期はそれほど感じませんが、落葉期の今見ると常緑樹がいかに広く分布しているのかがよくわかります。



この大半がアカガシです。常緑がこれだけ茂ると林床には日射が届かず、加えてシカの食害もあり下層植生はヒサカキがわずかに見られる程度の貧弱な状態です。このアカガシが昨秋は豊作で、ドングリが大量に落下しました。そのドングリをイノシシやシカが落ち葉や積雪を掘り起こして採餌しています。その結果斜面からの土砂流出が増大します。

右の写真の場所は昨秋浚渫を行い土砂を沢からほりあげ



ましたが、融雪と降雨で堆砂が進行しています。春になれば、またまた浚渫の作業が待っています。

森の動物の行動を把握するために森の何カ所かにセンサーカメラとセンサービデオを設置しています。これらのカメラには、シカ・イノシシ・タヌキ・テン・ノウサギなどがとらえられています。そのうちの1シーンが四季の森から南分岐へ向かう途中にセットしたカメラでとらえたのが左の写真です。この場所は、四季の森のミネラル補給場へ続く獣道にあたります。

1987年から毎月1回下の表の7地点で水温・pH・導電率を、北部湿原と南部湿原で各1地点で水位の調査を行っています。このうち湿原内の調査地点は、前ページのトップの写真の中に●▲で示しています。



水温・pH・導電率の測定



水位の測定

下の表の測定値は2月29日のものです。この日は断続的に雨が降っており、湿原は融雪水も加わって満水状態でした。この測定値で注目されるのは南部湿原のpHです。この値はスポーツドリンクの値に近い酸性です。これにはミズゴケ(ミズゴケ類は、細胞壁を持つプロトン交換機能と、ミズゴケ酸の分泌によって生育環境を酸性化する)が一役かっています。このため貧栄養に耐えられる生物しか生育できないこととなります。南部湿原以外にもオオミズゴケは分布していますが、その湿原には沢から直接流入水が供給されるため、流入水の影響が大きいのでpH値が大きくなっています。一口に湿原といっても場所によって環境が大きく異なっています。

測定地点	測定時刻	気温 ℃	水温 ℃	pH	導電率 μS/cm
排水口	9:15	6.0	6.0	5.6	37
ハンノキ下	9:30		6.0	5.4	44
北部湿原	9:40		6.0	5.3	44
中央-北部流路	10:00		6.0	5.4	44
山地-中央湿原	10:10		6.5	5.7	46
南部湿原	10:20		4.1	3.7	47
四季の森	10:55		6.2	5.3	48